



五島ねぶた



Welcome to 五高 library

# The door to the books

こんにちは、図書委員会です。  
今回のテーマは、「五島のコレ知ってますか?」です。

五島市の人口は、約3万4千人!これ常識!  
自然豊かで、古き良き文化を有したとても素敵の島です。もちろん…。  
私達は今回、五島出身の作家さんや五島を舞台とした本などを紹介します。  
五島歴の浅い寮生にも、ずっと五島で暮らす人にも、コレ知らなかった~と言わせたい!

この内容は、11月7日(木)に東京で行われる  
「BOOK MEETS NEXT 2024」(二学年バラモンプラン企画)で配布します。

令和6年度  
文部科学大臣表彰  
子供の読書活動優秀実践校

令和6年度  
五島高校:図書委員会  
10月作成 10月発行

図書委員制作担当  
2-1  
2-1  
2-2  
2-2

イラスト部制作担当  
2-1  
2-2

五島市富江町の歴史物語

かんじがしろものがたり  
勸次ヶ城物語

竹山 和昭 風詠社

1953年五島市生まれ。  
この本は、主人公の大工の勸次が富江を追われるところから始まる…。福江島の富江町には「勸次ヶ城」という、勸次と河童と一緒に力を合わせて築き上げた溶岩の城があります。  
五島に伝わる民話を基にした物語です。



五島を愛する大先輩①

めだかの列島

今井 美沙子 清流出版・復刊

1946年五島市生まれ。五島高校を卒業後、大阪に就職。育児の傍ら執筆を続け、1977年「めだかの列島」を刊行・デビュー作。

「わたしの仕事」で経済児童出版文化賞を受賞。  
このデビュー作は、今井さんが小さな五島で、肩を寄せ合い助け合って暮らした日々の記録です。

今井さんは、五島を知って欲しいと、五島をテーマにたくさんの本を執筆されている現役のノンフィクション作家です。

故郷への想いは、みな一緒なのですね。



作家は五島市奈留町出身の新星

おイネの十徳

馳月 基矢 長崎文献社

1985年五島市奈留町生まれ。江戸を舞台とした青春群像劇に定評がある、今注目の小説家。

この本は、長崎が舞台で、シーボルトの娘イネの少女時代を描いた歴史小説。

父シーボルトと別れて10年。おイネが12歳の時、父の弟子と出会い、父の偉大さを知ります。

おイネの波乱に満ちた生涯を描く物語は、昨年、シーボルト来崎200年を記念して書き下ろした話題作です。



五島の歴史、仰天!

霧の島、居着き人の灯火

いつしまくろぞう  
五島 黒臈 幻冬舎

五島市黒臈地区に昭和24年に生まれ、キリシタンの子孫。

この本は、沈黙の中に閉ざされてきた、五島に生きるキリシタンたちの移住に関する歴史小説。

時代は徳川幕府からのキリシタン弾圧が厳しい非情な世で、故郷を捨て五島へ逃れて来た。新たな生活は、決して平穏とは呼べない苦難の連続だった…。

なぜ隠れキリシタンは、「居着き人」として迫害され続けたのか?2023年に書き下ろした話題作です。

歴史を学びたい人は、ぜひ読んでみてください。



堂崎天主堂

10月五島高校 1/2

五島を愛する大先輩②

たまゆら  
玉響・麦のような女

高井 良 文芸社

1946年生まれ。五島高校卒業。  
島の穏やかな風物の中に見え隠れする、時の流れや人心の変化を丁寧に描き出した物語。

表紙画は高井さんが描いたもので、「麦」は踏まれると強くなると言われますが、五島人の芯の強さを表現しています。



かんころ餅

神父様は五島人

オラシヨの海

川口 清 中央出版社

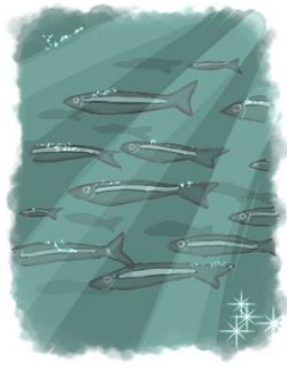
1940年五島市生まれ。カトリック教徒の神父様であった。「オラシヨ」とは、祈りという意味。

川口さんの小さい頃の家族物語。

五島の名物であるキビナゴやかんころ餅の話が一節ずつ入っていて、五島の方言が一層物語に引き込まれます。方言の説明もしてくれるので、分かりやすいと思います。



五島の魅力がビッシャあつよな!(たくさんありますよ)



きびなご

実在する五島自動車学校



トライアスロン  
=パラモン・キング

島へ免許を取りに行く

星野 博美 集英社インターナショナル

教習所の目の前は、綺麗な海水浴場。島の人は当たり前前に存在する場所だが、ロケーションは最高。物語は、40歳を超えた星野さんが思い切って、運転免許を取る!と決意するところから始まります。合宿で免許が取れる五島を選んだが、初めての島暮らしと勉強に悪戦苦闘する痛快エッセイです。

実際に大学生や本土の人が、たくさんこの合宿を利用しています。

起源を知っているのは、町の元教育長

五島うどんの御力—日本最古説を追って

吉村 政徳 長崎新聞社

皆さん!日本三大うどんは、諸説ありますが、讃岐・稲庭、そして五島うどんなのです。吉村さんは、新上五島町が「日本のうどんの発祥地」とする説を知り、うどんの歴史と文化を調べ、この本にまとめ上げました。最近では役場に「五島うどん課」ができ、販路拡大などを目的として町が、五島うどんの魅力を中心にPRしています。



地獄炊き

漫画家の故郷・アニメの聖地巡礼

ばらかもん

ヨシノ サツキ スクウェア・エニックス

きっと知らない人はいない!?五島のバイブル!!  
ヨシノさんは、五島市富江町出身。

物語は、九州西端の島で暮らすことになった若きイケメン書道家・半田清舟。都会育ちで神経質な「半田先生」が慣れない田舎暮らしの洗礼を受けながら書道家として、人として、少しずつ成長していく青年のハートフル日常島コメディ。

☆「ばらかもん超考察～はんだくんの島ぐらし～」英和ムックセットで読むのがおすすめです。



ロケ地の聖地巡礼



バラモン凧



悪人

吉田 修一 朝日新聞社

九州が舞台の映画「悪人」。実はココ、五島もロケ地のひとつ。クライマックスの名シーンが撮影されたのが大瀬崎灯台! 小説は、殺人事件を起こした孤独な男と、彼と共に逃避行に及ぶ女との狂おしい愛を描いています。細々とした描写がすべてに意味があり、とても素晴らしい作品です。小説家で名高い吉田さんは、長崎市出身です。

ちゃんこ



人気の作家が1ターン!

私が誰かわかりますか

谷川 直子 朝日新聞出版

結婚を機に、五島へ引っ越しをして来ました。移住して数年が経ち、家族の介護をすることに。この本は谷川さんの経験から見た、介護を担う女性の葛藤を描いた物語です。五島にもっと若者が増えたらいいな!

五島を愛する大先輩③

五島の椿

Goto no Tsubaki brand book

五島の椿株式会社の非売品の写真集なのですが、五島の魅力がたくさん詰まっています。この会社の谷川富隆社長さんは、五島高校の卒業生。最後のページに女優の吉永小百合さんが椿を持っている写真が載っているのですが、吉永さんは、この会社の化粧品のアンバサダーなのです。



大瀬崎灯台



